

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800070
法人名	社会福祉法人 全和会
事業所名	グループホーム 鮎田
所在地	福岡県飯塚市鮎田1791番地2
自己評価作成日	平成24年2月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月25日	評価結果確定日	平成24年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい本来の姿で気兼ねのない暮らし、生活ができるように職員全員が、本人、家族との関わり合いをもてる 支援に取り組んでいる。
現場の職員の能力を活かして、食事作りや庭の野菜作りなどに活かしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を自然に囲まれた国道沿いに位置し、落ち着いた環境の中にある。その人らしいのびのびとした暮らしを保证するために、食事、睡眠、入浴など、個々人の生活習慣やペースにあわせて、ゆとりある対応を心がけている。運営推進会議の中で地域への発信も積極的に行い、地域から様々な高齢者の相談を受けるまでに信頼関係を培っている。また医療面では、協力医療機関との連携が充実しており、緊急時や終末期ケアにおけるチームとしての支援体制が構築されている。月に1回は利用料金の支払いとともに家族面接が行われており、家族の思いを受け止めながら、本人本位のサービス向上につなげている。理念にある「目配り・気配り・心配り」が職員に浸透しており、家族の信頼も厚く、今後ますます地域の拠り所となることが期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれ現場の思いを統合した、実現可能な内容となっているので職員全員が、日々の実践に生かしている。	開設時に職員全員で考えて作り上げた独自の理念は、状況やニーズの変化に応じて変更していくことも視野に入れ、会議等において確認し合っている。玄関に掲示し、来訪者への周知も図っている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事等の案内を受けるも、実現出来ず。しかし、ホームでの行事等には、地域の方々の参加が、年々増えている。	自治会に加入しており、近隣からの入居者も多く、周囲からの関心も高い。地域の行事の案内を受け、また、事業所内のもちつき大会には、今年には自治会長、民生委員含め、5名の方の参加があった。少しずつ、地域とのつながりを深めている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の方々が、近隣からの入居が多いため、家族の来訪も多く、地域の方々とつながりあり日々の実践にいかされている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を、二ヶ月に一回実施、ホーム運営状況の報告に留まらず積極的な意見交換の場として、活用されており、災害対策等、地域と密着した、	運営報告や行事案内、防災についての話し合いなど行い、情報・意見交換の場となっている。地域から、認知症についてや独居高齢者についてなど、個別の相談も増加している。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員や、市担当者との連携を密にとり、施設運営についての助言を頂いたり、疑問点を、聞いたり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険課担当者やケースワーカー、地域包括支援センター職員とは、日常的に相談できる関係ができている。また、月に1回、福祉相談員の訪問がある。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先が、国道沿いになっているので、玄関は、職員が手薄の時は、危険を伴うのでやむなく施錠している。利用者、地域の方々、家族等にも十分な説明を行い了解して頂く。かと言ってそれに甘んじることなく身体拘束、虐待防止に関する内部研修を実施し職員全員が、理解、認識するように努める。	月1回の会議の中で、常に現状を確認し、個別の処遇について職員間で検討し、必ず記録に残し、よりよいケアを心がけている。玄関の施錠については、職員体制によっては施錠されている時間帯もあるが、日中は、できるだけ玄関を解放している。今後も、家族や地域、行政との共有認識を図りながら、安易な拘束とならないよう取り組んでいく意向である。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会や、研修で学んだ事を、日々の実践の中で活かし、防止に努める。	

福岡県 グループホーム 鯉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、制度利用の方が、おられたことから職員全員が、制度の理解を高めており、家族や来訪者へのパンフレット等を閲覧できるようにしている。	権利擁護に関する制度については、これまでの活用実績を踏まえ、支援の過程において学んだことも多い。資料を閲覧できるよう常設し、情報提供が行えるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の方々が、理解・納得して頂くように、契約の終結の前に十分な説明をしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、家族の方々の面会が多く、もしくは、月に一度の利用料の支払いの際に意見や要望を、気軽に話せるように声かけをしている。出された意見等を随時、話し合い運営に反映していけるように努める。	毎月の利用料の支払い時や日常の訪問等、家族が来訪する機会も多い。そのことで家族に定期的に面接することができ、十分なコミュニケーションを図ることができ、意見や要望の収集に努めている。家族の意向については会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させ実践していく。	月に1回の職員会議を実施し、職員の意見や提案、要望等を求めている。また、日頃からコミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境作りに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じた勤務状況を把握し、個々のやりがいを見つけ、向上心をもてるように職場環境・条件整備に努める。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は問わないが、勤務内容によっては話し合いとなる場合がある。又、働く職員についても自主的に研修や資格等の希望があれば、事業所側も、積極的に受け入れる体制を取るよう十分に配慮している。	60代の職員がもっとも多く、採用にあたっては、年齢や性別の制限はない。「高齢者を好きな人」が基本的な考えとなっており、資格も問わない。研修への参加や資格取得は積極的に奨励し、費用のサポートも行われている。採用の面接は事業所で行うため、業務についての理解を得やすい。年次休暇も完全に取得できるように保証されており、職員の定着率も高い。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育に関する内部研修の充実に取り組んでおり倫理規定や高齢者虐待防止・身体拘束について学ぶ場を設けている。認知症ケアの理解についても研修計画に盛り込んでおり、職員全員が、毎日の現場の中で利用者に対する、人権尊重を心かけている。	人権教育に関しては、法人としての研修を定期的に行っている。また実際に現場での言葉使いなど、その都度利用者の思いに配慮しながら、日常的に指導を行っている。	

福岡県 グループホーム 鯉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力、勤務状況を把握し、毎日の業務の中で、職員のスキルアップを図っており、現場を重視した、働きながらのトレーニングを進めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのグループホームとの交流を、図りお互いのサービスの質の向上を高めていけるように取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を行い、不安や要望等を聞く又、施設での生活に馴染んでもらえるように行事等に参加して頂いたりと安心して生活出来るように信頼関係づくりに努める。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学、面談を行い家族等の不安、要望を聞き、納得のいく説明を行い、施設での生活が安心して頂けるように家族等との信頼関係に努める。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等との面談により状況や要望などを把握本人、家族等に必要となる支援に努める。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年培ってきた個々人の人生、経験その人らしさを十分にさせる場として又、人生の先輩として職員も 学び共有できる関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族との在宅生活での絆を大切にしながら助言、情報を聞き職員共に、本人、家族等を支えいく関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みや住み慣れた家との交流が途切れないように外部からの訪問、外出等常時オープンに対応出来るような支援に努める。	近隣からの入居者が多いため、自宅への外出や外泊も自由にでき、また家族や友人の来訪も多い。家族の協力のもと、お墓参りなど、様々な外出支援に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 鯉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	個々人の性格等を把握し、利用者同士の間 に職員がさりげなく関わり、お互いに無理のない 関係が、保てるような支援に努める。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約終了後も必要に応じて経 過観察を行ったり、亡くなられた方の家族等の 相談、支援に努める。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の生活の中で利用者の希望や意向の把 握に努めている。本人、職員間に偏らず家族等 の協力も重要である。入居前の本人の生活 歴、趣味嗜好等の 情報収集等にも努める。	日常の会話や家族からの情報をもとに、思いや 意向の把握に努めている。	アセスメントの内容からは、個々のその 人らしさを理解するにはまだ不十分と なっている。実行可能な課題の抽出の ため、アセスメント様式の検討や職員 間の共有を期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居前に本人、家族等により面談、アセスメント を作成 又、他の事業所等の情報提供を 把握し、本人の長年の生活歴を崩さないように 努める。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の言動、行動を観察、小さな変 化も 見逃さないように一人ひとり現状の把 握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人、家族等の要望等を伺い担当職員との担 当者会議を行い作成する。又、必要とあれば、 かかりつけ医の助言、意見等を聞き個別の介 護計画になるようにしている。	計画書は、利用者・家族・職員・医師の意見を踏 まえ、作成している。日々の記録をもとに職員の 意見を反映させて、本人本位の支援に努めてい る。	現状の確認と見直しの必要性について 検討しながら、アセスメントに連動して、 個々の背景や暮らしが見えるプランを 期待します。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践の中で、気づきや疑問に対してそ の都度朝の申し送りで検討し介護計画の見直 しを行い実践へ反映している。		

福岡県 グループホーム 鯉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のケアプランに添った支援が主だが、個人の状態、状況は、日々変化している。その時々に対応出来るように努め支援していきたい。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の家族、知人の方々との交流の中で、昔ながらの畑の作り方など一緒に考え、作業したりと生き甲斐を感じられる。今後も維持出来るように支援していきたい。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関への受診を支援している。殆どの利用者が、月2回の定期的内科医の往診を行っている。日頃の健康管理もかかりつけ医との連携をとっている。	本人、家族の意向を尊重して、専門病院などの受診の支援を行っている。多くの利用者が、月2回、地域に密着した医療機関からの往診を受けている。また日頃から病状についての相談など緊密に連携を行っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、利用者の言動、行動に異変に気づいたときは、速やかにかかりつけ医の看護師に連絡を取り対応できるように支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が、入院又は、見込みがある際は、かかりつけ医と入院先の病院関係者との情報交換を密にし、本人、家族が安心して治療に専念できるように支援している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一昨年施設で初めての看取りを職員全員が、経験した事で、職員の自信につながり又、本人、家族等との信頼関係も深まる。今後も、地域、医療関係者と共に支援に取り組んでいきたい。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を説明している。実際に看取りを支援した経緯の中で、本人、家族の思いを受け止めながら、職員全員で取り組んだことは、日々の支援において大きな礎となっている。かかりつけ医や協力医との密な連携が図られている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、職員全員が把握、内部研修等で訓練を行い実践力を身に付けている。		

福岡県 グループホーム 鯉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の自衛消防訓練を実施している。運営推進会議等で地域の方々にも協力、参加の声をかけている。又、日々の勤務の中で常に緊急時に対する緊張感をもつ事を認識している。	夜間を想定して、火災消火及び避難訓練を実施し、夜間の1人態勢での連絡網の確認も行っている。自治会長の参加依頼も行い、実際に水消火器を使用しての訓練も計画している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、特に声かけや対応には、十分注意をはらっている。個人情報に関しては、事務所に保管、管理をしている。又、プライバシーに配慮した 対応に努める。	本人の気持ちを大切にして、さりげないケアを心がけ、声かけにも十分配慮している。個人情報については、事務所にて厳重な保管のもと管理している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中利用者との関わりで、自立出来る部分を引き出し、何をしたいのか、本人の思いや希望を素直に話せるように働きかけ支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長年暮らしてきた生活ペースを出来る限り崩さないように一人ひとりに添ったリズムを保てるように支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣服の調整を行い、自己決定出来る利用者には本人の好みで選んで頂く。又、散髪等も無理強いほしないが、定期的に施設で行い、本人の行き着けの店があれば家族等と相談し支援できるようにしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや、味見を職員と一緒にしたり、食前食後の手伝いを積極的にして下さる。又、一人ひとりの食べたい物を聞き、献立のなかに取り入れ喜ばれ、食欲が増すように工夫している。	一人ひとりの好みや食べやすさに配慮し、献立や味付け、季節の野菜や地元の食材にこだわり、家庭料理の温かさが感じられた。利用者ができる範囲で配膳や片付けなども担当している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を主にした内容で、栄養バランスも考え、一人ひとりにあった摂取量又、その時の状態によって内容を変えていくように支援している。		

福岡県 グループホーム 鯉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアの声かけ、見守り介助のいる方は介助を行い、口腔内、義歯の状態の確認をして清潔保持に努める。又、週一回の訪問歯科の際、口腔ケアを実施している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員が、把握し、声かけ誘導を行いその際自尊心を傷つけたり気分を損なわないようにしている。又、夜間のパットと交換時は、睡眠の妨げにならないように速やかに行う。	トイレでの排泄を大切にしながら、本人の状態に合わせて、紙パンツやパットなどを利用している。プライバシーに配慮しながらトイレ誘導を行っている。必要に応じて夜間はポータブルトイレも利用している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの利用者が、緩下剤を服用されており日々、調整している。日頃から食事の内容、水分の摂取量に気をつける。又、日中軽い体操やレクリエーションなどで身体を動かしたりと工夫に取り組んでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っており利用者の体調や希望にあわせるように支援している。入浴を拒否される方にも無理強いはいないようにしている。又、日頃見えない部分の身体の観察も行い変化があれば、すぐに対応するように努める。	週3回の入浴スケジュールはあるが、本人の希望やその時の気分に合わせて、無理強いしないようにしている。また時間帯も柔軟に対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせて職員が、声かけ、見守りを行う。毎食後に休まれる方もおられたり半日眠ると気分が良くなったりと、その時々状況 状態に合わせて安心できるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、利用者全員の服薬内容を把握、理解しており変化があれば、すぐにかかりつけ医に報告し、状態の変化の確認に努める。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の性格や生活歴を把握し、その人らしい楽しみを提供する。けて無理強いせず、その時々にあわせやりがいや喜びを持てるように支援している。		

福岡県 グループホーム 鯉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、施設の周りを職員と一緒に散歩したり季節ごとの花を見にドライブに行ったりと出来る限り戸外に出れるように支援している。又、帰宅願望が激しくなると家族と相談し日帰りや一泊で自宅へ帰られたりと家族の方々にも協力して頂き支援に努める。	周辺への散歩や月1回のドライブを計画している。菜の花や桜などの花見や、川にたなびく鯉のぼりなど、季節に応じて近場の景勝地などに出かけている。道の駅などにも買い物にでかけている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者が、お金を持つ事が不可能である。施設が、預かり金として管理し、本人の必要に応じて手渡しする事もある。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の必要に応じた対応をしている。家族の方々からの電話ある時は、本人と変わり気兼ねなく話が出来るように支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けのある食堂兼居間が、開放的な共有空間である。台所から食欲をそそる美味しそう匂いがして食事の時間を身体で感じる。又、穏やかな音楽など流れて心地良い午後のひと時を過ごせる空間です。季節を感じさせる掲示板の内容等の工夫をしている。	吹きぬけのある食堂兼居間は解放感あふれ、木のぬくもりが心地よく、また大きなガラス窓から道を挟んで、小高い林が一面に広がり、自然の風景を満喫することができる。お雛様の段飾りや節分の飾りなど、季節毎の行事を楽しんでいる。一人ひとりの誕生会を祝う写真が掲示されている。冬場の床暖房は心まで温かくなる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで居眠りする方、傍らでは、テレビを観られる方、気の合ったもの同士お喋りしたりとそれぞれが、自由に過ごせるように支援している。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の今までの生活の中で、慣れ親しんだ物や好みその人に合った環境づくりを支援するように努める。	本人の好みの物を配置し、すっきりと整理されている。ベッドや布団など、それぞれの生活様式を尊重している。個室内に洗面台を設置しており、清潔意識や身だしなみへの支援につなげている。掃除用の小物などを備えてる部屋もあり、本人の意欲を大切にしている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴、出来る限り自力で出来るように施設内外の環境整備に努め、自立心無くさず安全かつ安心して生活が出来るような工夫に努める。		